【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成16年10月28日(2004.10.28)

【公表番号】特表2000-503071(P2000-503071A)
【公表日】平成12年3月14日(2000.3.14)
【出願番号】特願平9-524865
【国際特許分類第７版】
　Ｃ２５Ｄ　21/14
【ＦＩ】
　Ｃ２５Ｄ　21/14　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成15年11月4日(2003.11.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書

平成１５年１１月０４日

適

特許庁長官　今井　康夫　殿

１．事件の表示

特願平　９－５２４８６５号

２．補正をする者

事件との関係　特許出願人

名称　アトーテヒ　ドイッチュラント　ゲゼルシャフト　ミット
ベシュレンクテル　ハフツング

３．代理人

住所　東京都新宿区四谷４丁目２５番５号
KDビル5階 〒160-0004 TEL 03-3350-4841

氏名　弁理士　(9186)　藤　田　アキラ

４．補正の対象書類名　(1) 請求の範囲

５．補正の対象項目名　(1) 請求の範囲

６．補正の内容　別紙の通り

特許庁
15.11.5
出願支援課
郵送

方式審査　佐藤

— 別　紙 —

請求の範囲

１．電気メッキ処理浴に新鮮な処理液体を連続的に添加することによって当該処理浴に含まれる物質を一定の濃度に維持するための方法にして、連続して又は間欠的に上記処理液体の調整可能な体積流れが適切な装置を用いて、上記処理浴での体積増加によって液体がオーバーフローすることなく上記浴から取り出され、この体積流れが添加されるべき新鮮な処理液体の体積流れに対して一定の比率に調整されているような方法。

２．取り出される処理液体の体積流れと処理浴に添加される新鮮な処理液体の体積流れとが等しい大きさに調整されることを特徴とする請求項１に記載の方法。

３．処理浴からの蒸発によって生じる当該浴の体積減少が、処理液体に含まれる溶剤の添加によって溶解物質なしに補われることを特徴とする請求項１又は２に記載の方法。

４．新鮮な処理液体における上記物質の濃度が処理浴での濃度よりも高く調整されていることを特徴とする請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。

５．新鮮な処理液体が処理容器に与えられ、処理液体が当該容器から再び取り出され、その際に液体は容器の異なった個所で供給され取り出されることを特徴とする請求項１～４のいずれ

か一項に記載の方法。

６．添加されるべき新鮮な処理液体の体積流れが、処理液体を通り抜けて導かれる処理品を介した処理浴からの伴出による処理液体の損失に相当する付加的な体積流れの数値だけ大きくなることを特徴とする請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。

７．処理液体の取り出し及び添加のために計量配分ポンプが用いられることを特徴とする請求項１～６のいずれか一項に記載の方法。